

日本史 A

(解答番号 ~)

第1問 次の文章A・Bは、2020年の夏、東京に暮らす花園カオルさん(17歳)が祖父の家を訪れた際の会話と、後に祖父に書き送った手紙である。これらの文章を読んで、下の問い(問1～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 22)

A

祖父：(古い箱を開けながら)よいしょっと。これが我が家の家系図だ。

カオル：わあ……見たことのない名前がたくさん……。あれ、おじいちゃんは8人きょうだいの上から5番目？ 5人きょうだいの3番目ではなかった？

祖父：一番上の姉は結核で、末の妹は生まれてまもなく栄養失調で死んだよ。一番上の兄貴は戦争から帰ってこなかった。

カオル：そういえば、仏間に並んだご先祖の写真の中に、軍服姿の若者が混じっているのが気になっていたけれど、その人だったのか。

祖父：ほら、この箱には、兄貴が学生服を着て家族と写った写真もあるよ。兄貴の右にいる 姿の人が母親、つまりカオルのひいばあちゃんだ。

カオル：へええ、そうなのかあ。 は、日中戦争が始まってしばらくすると禁止になるんだったよね。戦争は、外見にも影響を与えるんだね。

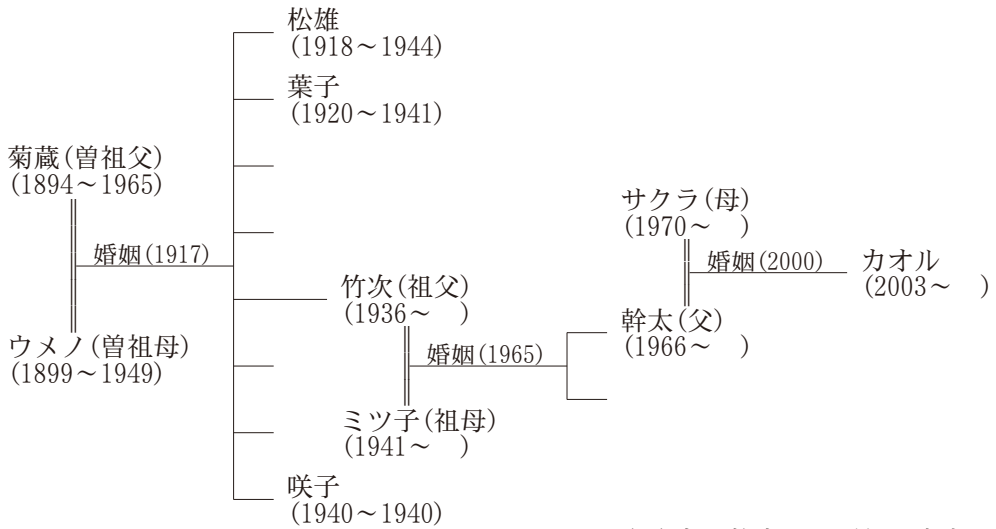
祖父：よく知っているね。戦争中、男に対しては、 。

カオル：あれっ、ひいばあちゃんのおなかにいるのは……ええっと、おじいちゃん？

祖父：そうなるかな。それにしても、子どもは次々生まれるし、かたや続いて死ぬし、食べ物はないし、戦争中のひいばあちゃんは大変だったと思うよ。

カオル：それで50歳で亡くなる。うーん、そういう人生もあるんだなあ。ご先祖たちについてもう一度、頭を整理してみるよ。それと、家系図や写真以外にもいろいろ入っていきそうなこの箱、ゆっくり見たいし、箱ごと持って帰っていい？

カオルさんがまとめ直した家系図



()内の数字は西暦年を表す

問 1 空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア パーマネント イ 国民服が制定されたよ
- ② ア パーマネント イ ざんぎり(ザンギリ)頭が強要されたよ
- ③ ア もんぺ イ 国民服が制定されたよ
- ④ ア もんぺ イ ざんぎり(ザンギリ)頭が強要されたよ

問 2 東京に戻ったカオルさんは、一家の生きた時代を理解しようと、自分で作成した上記の家系図と教科書を見比べた。この家系図に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- X 日露戦争に出征した人はこの中にはいない。
- Y 曾祖母(ウメノ)が選挙権を有した時期はない。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
- ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

日本史 A

問 3 前ページの**家系図**において二重線(≡)で示された婚姻関係について述べた次の文 X・Y の空欄 **ウ** **エ** に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **3**

X 曾祖父母の婚姻は、 **ウ** の下で行われた。

Y 祖父母の婚姻は、法的には **エ** の合意に基づいて行われた。

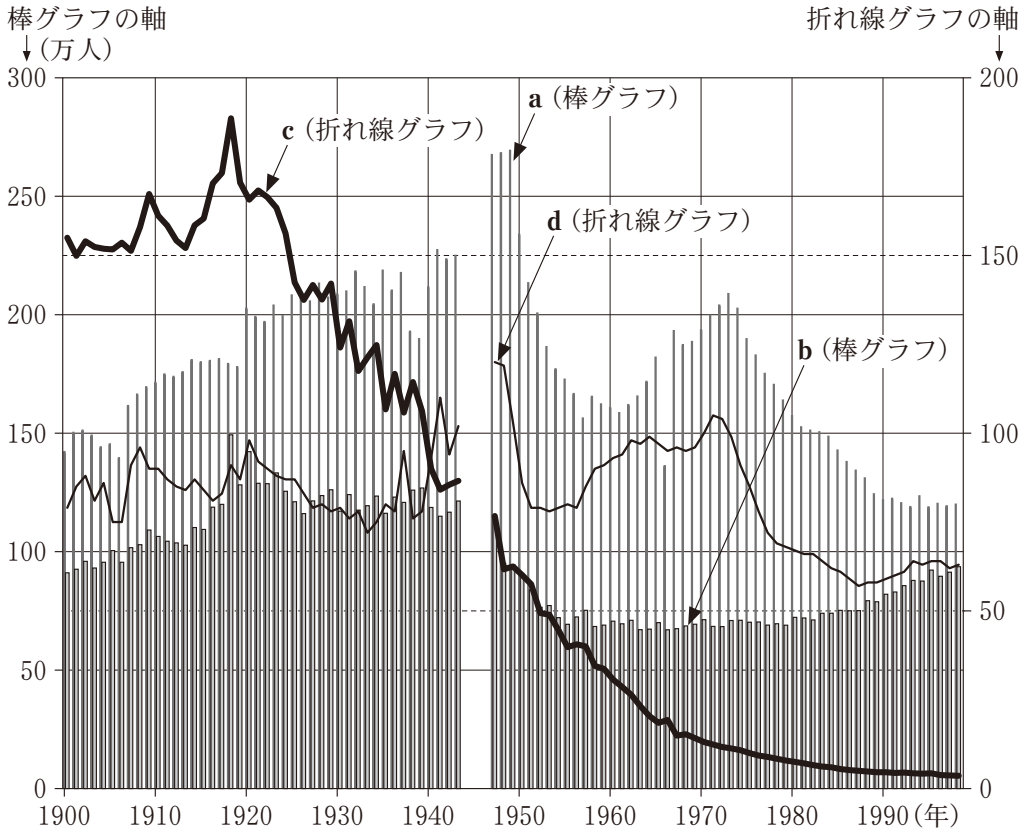
- ① ウ ボアソナードが起草した民法 エ 両 性
- ② ウ ボアソナードが起草した民法 エ 両 親
- ③ ウ 戸主の強い権限を定めた民法 エ 両 性
- ④ ウ 戸主の強い権限を定めた民法 エ 両 親

問 4 カオルさんは、それぞれの生没年を確認するうちに、曾祖母(ウメノ)が生まれた 1899 年から、政府が近代的な人口動態統計を取り始めたと知った。そこで、以後 100 年の移り変わりを分析した文献から**メモ**を取り、関連の**グラフ**を作成してみた。この**メモ**を読み、次ページの**グラフ**の a～d が示すものとして正しい組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **4**

カオルさんが作成した**メモ**

- ・ 明治から大正にかけての乳児死亡率は 150～180 台で推移していたが、1940 年には二桁台まで低下した。
- ・ 婚姻率は、敗戦直後に最高を記録し、1988 年からは一時、上昇傾向を見せた。
- ・ 「第 1 次ベビー・ブーム」期に生まれた「団塊の世代」が子どもを生子始めた 1973 年前後には、「第 2 次ベビー・ブーム」が出現した。
- ・ 敗戦後、死亡数は減少したが、1980 年頃から増加した。

カオルさんが作成したグラフ



(厚生省大臣官房統計情報部編『人口動態統計 100年の動向 1899～1998』により作成)

(注1) 1944～46年は資料不備のためデータなし。

(注2) 乳児死亡とは生後1年未満の死亡をいう。

(注3) 乳児死亡率=乳児死亡数÷出生数。婚姻率=婚姻届出件数÷日本人人口。それぞれ1,000倍、10,000倍に換算した比率で示した。

- ① a 出生数 b 死亡数 c 乳児死亡率 d 婚姻率
- ② a 出生数 b 死亡数 c 婚姻率 d 乳児死亡率
- ③ a 死亡数 b 出生数 c 乳児死亡率 d 婚姻率
- ④ a 死亡数 b 出生数 c 婚姻率 d 乳児死亡率

問 6 次の史料は、カオルさんが閲覧した新聞である。下線部②も踏まえ、この記事の内容について述べた文として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

6

史料

| | | |
|---|-------------|--|
| <p>朝日新聞 東京新聞 日本産業経済 毎日新聞 読売報知</p> | <p>共同子外</p> | <p>定価 一部二銭 編集発行人 杉山 勝美 印刷人 吉見 幸雄 東京部町区有楽町二ノ三 発行所朝日新聞東京本社</p> |
| <p>昭和十九年 六月十六日</p> | | |
| <p>今暁、北九州に敵機来襲 わが損害は極めて軽微 二十機を邀撃(注1)、数機撃墜</p> | | |
| <p>サイパンに上陸企図 三度来襲、今なお激戦中</p> | | |
| <p>大本営発表 昭和十九年六月十六日八時本十六日二時頃支那(注2)方面よりB29及B24二十機内外北九州地方に來襲せり。我制空部隊は直ちに邀撃し其の數機を撃墜これを撃退せり。我方の損害は極めて軽微なり</p> | | |
| <p>大本営発表 昭和十九年六月十六日五時「マリアナ」諸島に來襲せる敵は十五日朝に至り「サイパン」に上陸を企図せしも前後二回これを水際に撃退せり 敵は同日正午頃三度來襲し今なお激戦中なり</p> | | |

(注1) 邀撃^{ようげき}：迎え撃つこと。
(注2) 支那：当時用いられた中国の呼称。

- ① 「B29」とは、中国の爆撃機の種類である。
- ② 「大本営」とは、戦局を伝える新聞社の連合組織である。
- ③ 史料では、日本軍が、サイパンに上陸しようとした米軍を2回撃退したと報じられている。
- ④ 史料では、空襲による北九州の深刻な被害が強調されている。

日本史 A

問 7 次の文Ⅰ～Ⅲは、カオルさんが図書館で読んだ手記や手紙の一部である。書かれた出来事の古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。なお、いずれも()内は手記や手紙の日付である。

| |
|---|
| 7 |
|---|

Ⅰ 日比谷公会堂なる国民大会に小磯首相の声をきかんと昼食を略してゆきたるに、はや堂にあふれた群衆が立ちならび、マイクにてきくとのこと。

(10月20日)

Ⅱ 父母上様、去る六日の原子爆弾は非常に威力のあるものでした。自分はそのために顔面、背中、左腕を火傷致しました。(8月25日)

Ⅲ イタリア無条件降伏の報を知る。九月三日に既に調印されていたのである。世界史の現断面深く想う。イタリアは降伏した。独ソ戦線は依然苛烈である。(9月9日)

(日本戦没学生記念会編『新版 きけ わだつみのこえ』)

① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ

② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ

③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ

④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ

⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ

⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

第2問 女性解放運動の先駆者として知られる景山英子(後に福田英子)に関する次の文章を読み、下の問い(問1～4)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 12)

景山英子は、1865年に岡山藩の①下級武士の家に生まれた。生活の苦しかった景山家では家計のために寺子屋を開いていた。英子も幼い頃から学問に励み、小学校卒業後は小学校や私塾の教師をつとめた。自由民権運動に参加するなか、岡山に遊説に来た岸田俊子の影響を受け、数え年20歳の時に上京した。しかし、**ア**を企てた大阪事件に関与して、逮捕、投獄された。

出獄後には、1901年に②^{つのはず}角筈女子工芸学校を設立したり、1904年に自伝『妾の^{わらわ}はんせいがい半生涯』を刊行したりした。その後、**イ**の活動に参加することで社会主義に近づくと、1907年には雑誌『世界婦人』を創刊し、国際的な視野から「婦人解放」を訴えた。「発刊の辞」で英子は、「③現在社会の状態を見れば、ほとんど一切の事情は、みな婦人の天性を迫害し^{あつそく}圧塞(注)するのであります。されば、勢いここに婦人自身の社会運動が起ころねばなりません」と述べている。この雑誌は激しい弾圧もあり2年半で廃刊となった。英子は1927年に死去した。



1904年頃の英子

(注) 圧塞：圧迫のこと。

問1 空欄**ア** **イ**に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。**8**

- | | | | | |
|---|---|---------|---|-----|
| ① | ア | 朝鮮の内政改革 | イ | 平民社 |
| ② | ア | 朝鮮の内政改革 | イ | 政教社 |
| ③ | ア | 台湾の支配 | イ | 平民社 |
| ④ | ア | 台湾の支配 | イ | 政教社 |

日本史 A

問 2 下線部②に関連して、幕末維新期の武士について述べた次の文 X・Y と、それに該当する語句 a～d との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 9

X 下級武士出身のこの人物が藩政の主導権を握った薩摩藩は、幕府批判の姿勢を強め、長州藩との間で同盟を結んだ。

Y 旧幕府軍の武士などを率いた榎本武揚が、この地で新政府軍に降伏した。

a 西郷隆盛 b 木戸孝允 c 新 潟 d 箱 館

- ① X — a Y — c ② X — a Y — d
③ X — b Y — c ④ X — b Y — d

問 3 下線部①の学校を新たに設立した理由について、英子は次の史料のように記している。この史料の内容及び時代背景に関して述べた次ページの文 a～d について、最も適当なものの組合せを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。

10

史料

現時一般女学校の有様を見るに、その学科はいたずらに高尚に走り、そのいわゆる工芸科(注1)なるものも、また優美を旨とし(中略)実際生計の助けとなるものあらず、以て権門勢家の令閨(注2)となる者を養うべきも、中流以下の家政を取るの賢婦人を出すに足らず。(中略)妾(注3)らのひそかに憂慮措くあたわざる所以なり。

(『妾の半生涯』)

(注1) 工芸科：ここでは、主に刺繍や裁縫の技術を教える学科のこと。

(注2) 権門勢家の令閨：権力や勢力のある家の妻の尊称。令夫人。

(注3) 妾：女性の自称のへりくだった言い方。わらわ。

- a 史料によれば、英子は新設の学校で、女性に優美な技術を教えたかったと考えられる。
- b 史料によれば、英子は新設の学校で、女性に生計の助けになる技術を教えたかったと考えられる。
- c この学校が設立された後で、教育勅語が出され忠君愛国の精神が強調された。
- d この学校が設立された後で、義務教育の期間が4年から6年に延長された。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

問 4 下線部◎の文章が書かれた時期の社会に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

11

- X 女性解放を唱える新婦人協会が活動していた。
- Y 女性が政治集会に参加することは禁止されていた。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
 ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

日本史 A

第3問 海外留学を希望するKさんは、外国での経験を糧とした人物に興味を覚え、図書館で調べてみた。Kさんが国内政治や外交の歴史と関係させながらまとめた次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～7)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 22)

A

開国後、幕府は日本人の海外渡航の禁を解き、明治新政府は **ア** によって、「智識を世界に求め」る基本姿勢を明らかにした。西洋への留学も奨励され、以後、
① 多くの青年が海の向こうに学びの場を求めた。

日本で最初に内閣を組織した伊藤博文も幕末に留学経験を持ち、1880年代の海外調査を経て、主に **イ** の憲法を参考とする大日本帝国憲法制定の中心となった。帝国議会開設当初、対立的であった政府と議会との関係は、日清戦争など対外緊張と向き合うなかで変化し、議会を基盤とする政党内閣も生まれた。伊藤自身も政党を組織し、日露戦争時には、フランス留学が長かった西園寺公望がこれを引き継いだ。

西園寺は、官僚や貴族院の支持を受けた陸軍出身の桂太郎と交互に政権を組織し、② 戦後経営を担った。桂もドイツに留学した経験があり、軍制改革で頭角を現した人物である。第3次桂内閣は大衆の批判の高まりを受けて倒れたが、桂も新党結成を計画していた。イギリスで学び外交官から政党政治家となった加藤高明がこれを引き継ぐことで、政党政治が準備されていった。

問1 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **12**

- ① ア 王政復古の重大令 イ ドイツ(プロイセン)
- ② ア 王政復古の重大令 イ 清 国
- ③ ア 五箇条の誓文 イ ドイツ(プロイセン)
- ④ ア 五箇条の誓文 イ 清 国

問 2 下線部㉔に関連して、次の人物はいずれも海外経験を有する。それぞれの人物について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① 金子堅太郎は、大日本帝国憲法の草案作成に当たった。
- ② 市川房枝は、社会主義を掲げる社会民主党を結成した。
- ③ 美濃部達吉は、憲法学者として天皇機関説を唱えた。
- ④ 田中義一は、首相として山東出兵を行った。

問 3 下線部㉕に関連して、日清戦争後から第一次世界大戦勃発までの時期に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 14

- X 日産・日窒などの新興財閥が、急成長した。
 Y 日本は日露戦争に勝利した後、軍備を縮小した。

- ① X 正 Y 正
- ② X 正 Y 誤
- ③ X 誤 Y 正
- ④ X 誤 Y 誤

B

1914年に㉖第一次世界大戦が勃発し、外相をつとめていた加藤高明は日本の参戦を主導した。戦争が長期化するなか、ヨーロッパで学んだ吉野作造は民本主義を唱える論文で政党政治を支持する世論を高めた。こうした世論を背景に政党政治家の原敬が政権を担った。原は留学経験をもたないが、苦学してフランス語を学び、外交官を経て政界に転じた人物である。

1919年のパリ講和会議には、フランス通の西園寺公望が派遣された。この会議の結果を受けて、天皇の名前により国の方針として、“ウ”という内容を含む詔勅が出された。

日本史 A

問 4 空欄 **ウ** に入る内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **15**

- ① 万国が是とするところに従い、世界の大きな法則にのっとり、それによって国際連盟が平和の実績をあげることを願う
- ② 満州国の建国について国際連盟と所見を異にすることから、政府に離脱する措置をとらせる
- ③ 世界の大勢が有利に働いていないため、アメリカ・イギリス・中国・ソ連の4か国に対してその共同宣言を受諾する
- ④ アメリカとイギリスの両国は東アジアの混乱を助長し、平和の美名に隠れて東洋を制覇しようとしている

問 5 下線部◎に関して、第一次世界大戦の勃発から1920年代までの出来事に関して述べた次の文 **X**・**Y**と、それに該当する語句 **a**～**d**との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **16**

X 原敬内閣は選挙に関する改革を行い、この制度を導入した。

Y 労働者や農民の立場に立つプロレタリア文学が盛んになり、担い手の一人であるこの人物は、『太陽のない街』を書いた。

a 比例代表制 **b** 小選挙区制 **c** 徳永直 **d** 武者小路実篤

- ① **X** — **a** **Y** — **c** ② **X** — **a** **Y** — **d**
- ③ **X** — **b** **Y** — **c** ④ **X** — **b** **Y** — **d**

C

明治初めに留学し鉱山学を学んだ団琢磨は、1914年に三井合名会社理事長となった。団は財界人として、実業家の訪問団を率いて欧米を巡遊するなど、国際協調を支える努力を続けた。一方、明治の末から日米両国で活躍したジャーナリストの馬場恒吾は、特派員としてパリ講和会議についても報道し、労働運動にも理解を示した。

団も馬場も、㉔議会制度の改革や政党政治の動向に少なからぬ関心を寄せた。しかし団は㉔世界恐慌の深刻な影響下で暗殺され、馬場は軍部の力が強まるなかで、事実上の執筆禁止状態に追い込まれていった。

問 6 下線部㉔に関連して、衆議院に無産政党の議員が誕生した年に書かれた馬場恒吾『議会制度改革論』(史料)を読み、空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

史料

議会を如何に改革すべきか。制度としては衆議院は已に に迄到達した。此上に尚選挙有権者の年齢低下、婦人参政権の問題が残るけれども、衆議院を改革する中心の問題は寧ろ其運用の方法にある。(中略)之に反して は制度の改革を必要とする。(中略) は華族の支配する所となっている。議会は国民の衆智を集めるを以て目的とする。華族は大抵祖先の功勞に依って華族となったもので、現在の華族が必ずしも国民の智慧の代表者とは云えない。

- ① 工 翼賛選挙 オ 元老院
 ② 工 翼賛選挙 オ 貴族院
 ③ 工 普通選挙 オ 元老院
 ④ 工 普通選挙 オ 貴族院

日本史 A

問 7 下線部㉔により、多方面で第一次世界大戦後の秩序が揺らいだ。この時期の世界の動きを述べた次の文 X・Y と、それぞれに関係する日本の動き a～d との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 18

世界の動き

- X ブロック経済圏が形成された。
Y ヒトラー政権が誕生し、一党独裁体制が敷かれた。

日本の動き

- a 管理通貨制度に移行し、円安を利用した輸出が伸びた。
b 工部省を設置して、産業振興に努めた。
c 日ソ基本条約を結んだ。
d 日独伊三国防共協定を結んだ。

- ① X — a Y — c ② X — a Y — d
③ X — b Y — c ④ X — b Y — d

第 4 問 Hさんの高校の授業では、「第二次世界大戦後の民主化政策」について、戦前からの流れやその後への影響を含めて発表することになった。Hさんたちの班は、農地改革をテーマに選び、図書館で文献を調べ、次の発表用スライド 1～3 を作成中である。このスライド 1～3 を読み、下の問い(問 1～7)に答えよ。(配点 22)

スライド 1

1. 農地改革の歴史的背景(戦前期)

1-1 ㉔ 寄生地主制の形成(明治期)

- ・大地主は自ら耕作せず、農地を小作人に貸し付ける(地主経営)
→大地主は小作料収入を土地や株式などに投資

1-2 寄生地主制の ア (1920年代～1930年代前半)

- ・1920年代の慢性的な不況
→農産物価格の低下
- ・㉕ 日本農民組合の結成
→小作料や耕作権をめぐる、小作争議が活発化

1-3 まとめ

1920年代に小作人の権利意識が高まり、小作争議を通じて、小作人の地位向上はある程度実現した。これによって、明治期に形成された大地主と小作人との関係が、大正期以降に変化していったことが分かった。

日本史 A

問 1 下線部②に関連して、明治期の大地主と小作人に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 19

X 大地主は一般に、小作料を現金で受け取っていた。

Y 小作人の中には、子どもたちを工場などへ働きに出す者がいた。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問 2 下線部①に関連して、1920年代に活動した組織として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

① 全国水平社

② 日本社会党

③ 明六社

④ 翼賛政治会

問 3 空欄 ア に入る語句 X・Y と、その語句が入る理由 a・b との組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 21

語句

X 発 展

Y 動 揺

理由

a 小作料の引上げが実現した。

b 小作料の引下げを求める動きが広まった。

① X — a

② X — b

③ Y — a

④ Y — b

スライド2

2. 農地改革の歴史的背景(戦時期)

2-1 総力戦と食糧増産

- ・労働力や肥料の不足などにより食糧不足が深刻化
→総力戦遂行のため、食糧の安定供給が必要になる

2-2 農業統制の展開

- ・小作料統制令の施行(1939年)… 小作料の引上げを禁止する
 - ・㊦米の供出制度の開始(1940年)… 政府が耕作者から直接買い上げる
 - ・食糧管理法の制定(1942年)… 公定価格以外の食糧取引を禁止する
 - ・農地審議会で作農創設の促進を決定(1943年)
- *これらの点から、戦時期では **イ** が採られたと考えられる

2-3 まとめ

戦時期には、政府が主要食糧の生産・流通・消費を管理した。また、自作農創設に向けた動きも一部でみられた。戦時期の食糧・農地に関する政策は、戦後の農地改革に引き継がれる部分もあったが、寄生地主制の強制的な解体を目指すものではなかった。なお、食糧管理制度は戦後も続いたが、その目的は変化していった。

日本史 A

問 4 下線部㉔に関連して、戦時下の物資の統制に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 22

X 砂糖・マッチなどの消費を制限する切符制が開始された。

Y 国家総動員法にもとづき、価格等統制令が出された。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

問 5 空欄 イ に入る政策 X・Y と、その政策の目的 a・b との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 23

政策

X 小作人(耕作者)を優遇する政策

Y 地主を優遇する政策

目的

a 寄生地主制を強化するため。

b 食糧の生産を奨励するため。

- ① X — a ② X — b ③ Y — a ④ Y — b

スライド3

3. 農地改革の過程と実績

3-1 GHQの目標 … 軍国主義の温床の除去

- ・寄生地主制の除去による安定した自作農経営の創出

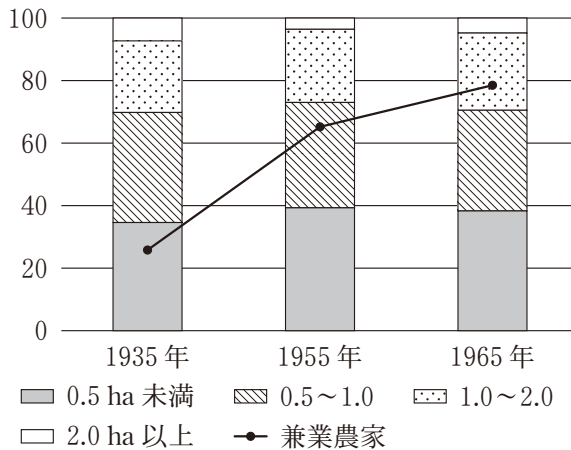
3-2 農地改革の過程

- ・政府主導の第一次農地改革案の決定(1945年)
- ・GHQの勧告にもとづく第二次農地改革の開始(1946年)
→国が公定価格で農地を買収し、小作人に売り渡す(1947~50年)

3-3 農地改革の実績

- ・総農地に占める小作地面積の変化
45.9%(1945年11月) ⇒ 9.9%(1950年8月)
→農家の大部分が自作農になった

図 経営規模別農家戸数と兼業農家戸数の割合(%)



(三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』により作成)

日本史 A

問 6 スライド 3 を参考にしながら、農地改革の過程と実績に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① GHQ は、日本の軍国主義の原因の一つに寄生地主制があると考えていた。
- ② 第一次農地改革案は不徹底であるとみなされ、寄生地主制の除去を求める GHQ の指示により、第二次農地改革が開始された。
- ③ 1965 年の農家の 9 割以上は経営規模 2 ha 未満であり、1935 年時点と比べて経営規模の小規模性は大きく変化していない。
- ④ 1965 年の農家の約 8 割は兼業農家であり、1935 年時点と同様に、専業農家の割合は低いままである。

問 7 この学習のまとめとして、Hさんたちは戦後の農業の展開を整理している。その内容に関して述べた次の文 a ～ d について、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 25

- a 米の生産調整のため、減反政策が開始された。
- b 米の輸入量を減らすため、減反政策が開始された。
- c 農業の経営の改善を図るため、農業基本法が制定された。
- d 自作農を創設するため、農業基本法が制定された。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

第 5 問 高校生のユウキさんは、欠席した日本史の授業のプリント 2 枚(年表・史料)を、ノゾミさんから渡され、授業の内容について話を聞いた。年表と会話を読んで、以下の問い(問 1～7)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 22)

年表

| | 福祉・社会保障に関する事柄 | 日本の国内外の動き |
|---|---|-----------------|
| A | ア 省の設置(1873) 恤救規則の制定(1874) 軍人恩給法の制定(1890) ㊦工場法の制定(1911) 軍事扶助法の制定(1917) | 第一次世界大戦終結(1918) |
| | ア 省社会局の設置(1920) 救護法の制定(1929) | |
| B | 厚生省の設置(1938) 国民健康保険法の制定(1938) | 敗戦(1945) |
| C | 生活保護法の制定(1946) 日本国憲法の公布(1946) | |
| | 生活保護法の全面改正(1950) 社会福祉事業法の制定(1951) | |
| | 国民健康保険法の全面改正(1958) | |

日本史 A

ユウキ：福祉の歴史についてだったんだね。年表の空欄アには、何が入るの？

ノゾミ：警察・衛生などを担った省の名前が入るよ。年表のAの時期には省内に社会局を設置して、貧困問題などにも本格的に取り組んだんだって。

ユウキ：この1874年の規則は何？

ノゾミ：それは「じゅつきゅうきそく」といって貧困者を救う規則だよ。

ユウキ：そんなに早くに貧困者救済の規則が作られてたんだ。

ノゾミ：うーん、でも、Aの時期にできた救護法は国や道府県や市町村の公的扶助義務を認めたものとされているけど、㉞恤救規則は、貧困者への公的扶助義務を認めたものではないと解釈されているんだって。

ユウキ：へえ。㉟Aの時期には、いろいろなことが変わったんだね。

ノゾミ：そうだね。もう一つ大事なのは、軍隊との関わりなんだ。

ユウキ：たしかに軍人恩給法や軍事扶助法などは、兵役と関係がありそうだね。

ノゾミ：そう。それに、空欄イとの全面戦争も大きな転機だったんだ。Bの時期に、厚生省ができたんだって。この省が医療保険や社会保障を担い、国民健康保険制度などが急速に整えられたんだよ。㊱もう1枚のプリントの史料は、その理由を考える材料だよ。その時の厚生大臣が制度の重要性を述べたものなんだってさ。国民健康保険制度が整えられたのは、

| |
|---|
| ウ |
|---|

。

ユウキ：健康保険はCの時期だと思っていた。そうやってできた国民健康保険の制度が現在まで続いているのは、なんだか不思議だね。㊲Bの時期に起きた変化も意外と大きかったんだなあ。その次のCの時期に生じた変化も年表にはたくさん書いてあるね。

ノゾミ：そうだね。その国民健康保険法は、Cの時期に新しくなってるね。ABCそれぞれの時期にいろんな制度ができているよね。㊳いくつもの時期の変化が重なって、現在につながっているんじゃないかな。

問 1 年表の空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **26**

- ① ア 農商務 イ 中国
- ② ア 農商務 イ アメリカ
- ③ ア 内務 イ 中国
- ④ ア 内務 イ アメリカ

問 2 年表の下線部③が制定された背景を述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **27**

- X 労働者が低賃金や長時間の労働を強いられていたことが問題になった。
- Y 労働者の地位向上を目的に結成された日本労働総同盟が全国的組織に発展した。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
- ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

日本史 A

問 3 次の①～④は、年表にある恤救規則・救護法・日本国憲法・生活保護法(1950年の全面改正後)のいずれかの一部(要旨)である。下線部⑤の解釈を参考に、恤救規則の一部(要旨)として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 国はすべての生活面で、社会福祉・社会保障・公衆衛生の向上と増進に努めなければならない。
- ② 貧困者の救済方法は、人びとの相互の助けあいの精神によって定めるべきものである。
- ③ 生活に困窮するすべての国民に対して、国はその困窮の程度に応じ、必要な保護を行い、その最低限度の生活を保障する。
- ④ 道府県・市町村・民間人が負担する救護費用に対し、国庫がその二分の一以内を補助する。

問 4 下線部⑥に関連して、年表のAの時期の生活文化にかかわる変化に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 29

- a 娯楽の分野では、ラジオ放送が開始された。
- b 娯楽の分野では、テレビ放送が開始された。
- c 出版の分野では、中村正直らによって西洋思想の訳本が出された。
- d 出版の分野では、「円本」と呼ばれる1冊1円の本が誕生した。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

- 問 5 次の史料は下線部①で言及された史料である。この史料を読んで、会話文の空欄 **ウ** に入る文として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

30

史料

小泉親彦(注1)「健民と国民健康保険」

明日の決戦に備えつつ、太き長き決戦の連続に勝ち抜きます為には、身体が丈夫で頭脳明晰^{めいせき}であり肚^{はら}もあり(注2)、皇国日本にしっかり足を踏みしめた質実剛健な国民^{すなわち}、即、健民を急速に、然も多数育成することが刻下^{こつか}(注3)喫緊の要務であります。蓋し^{しか}(注4)斯る健民こそ、内に在っては今日国家の絶対要請たる生産戦^{けだ}(注5)に勝ち抜き、外に出でては健兵となって、徹底的に敵をたたきめすことが出来るからであります。

(『国民健康保険』1942年12月)

- (注1) 小泉親彦：当時の厚生大臣。
 (注2) 肚もあり：度量が大きい。
 (注3) 刻下：目下。現在。
 (注4) 蓋し：思うに。
 (注5) 生産戦：生産を増強することを、戦争に例えた表現。

- ① 国内では治安を維持するために、国外では日本人の穏やかさを印象づけるために、健康な心身をもつ国民の育成が急務とされたからなんだった
- ② 国内ではぜいたくをしないために、国外では戦場での飢えに堪えるために、健康な心身をもつ国民の育成が急務とされたからなんだった
- ③ 国内では少数精鋭の人材をつくるために、国外では移民となって働くために、健康な心身をもつ国民の育成が急務とされたからなんだった
- ④ 国内では生産力を高めるために、国外では敵に打ち勝つために、健康な心身をもつ国民の育成が急務とされたからなんだった

日本史 A

問 6 下線部㉔について述べた次の文 X・Y と、それに該当する出来事 a～d との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 31

X 年表の B の時期に、学問・思想に対する統制が強まった。

Y 年表の C の時期に、憲法によって学問・思想の自由が保障された。

a 人民戦線事件

b 三・一五事件

c 日本学術会議の発足

d 内閣情報局(情報局)の設置

① X — a Y — c

② X — a Y — d

③ X — b Y — c

④ X — b Y — d

問 7 下線部㉕の発言をきっかけに、ユウキさんとノゾミさんは、男女平等に関して、敗戦から現在にかけてどのような変化があるか、調べてみることにした。次の文 I～III について、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 32

I 男女共同参画社会基本法が制定された。

II 男女共学の原則を規定した教育基本法が制定された。

III 男女の職場での平等を推進する法律が女子差別撤廃条約(女性差別撤廃条約)をうけて制定された。

① I — II — III

② I — III — II

③ II — I — III

④ II — III — I

⑤ III — I — II

⑥ III — II — I